
捻花

嘩月 - ka「d/z」uki -

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

捻花

【Nコード】

N3133L

【作者名】

嘩月 - k a 「 d / z 」 u k i -

【あらすじ】

- - - - -

(前書き)

ネジバナ

一人、仄かに照る部屋。

画面に映る薄らいだ自分の姿。

あの人はいつも、忙しそう。

二人、真つ暗闇な部屋。

瞳に映る恍惚な自分の姿。

あの人はいつも、微笑んでくれていた。

何故だか胸が狂しい。

全てを手に入れたい。

あからさまな束縛が欲しい。

優しいあの人は、所有物として見ない。

触れて、壊れないように。

それが不安にさせている。

胸に顔を埋めても、拭い取れない恐怖が迫る。

いつその事、壊してください。

灯、浮き彫りになる歪み。

画面に映る白黒の崩壊ノイズ。

あの人はいつも、嘘みたいに優しかった。

至近距離の遠恋。

指から落ちてく幻覚。

醜くも独占されたい。

気まぐれな糸は、綺麗で黒混ざる緋。
途切れ、迷わないように。

加速するのは焦燥感。

床に顔を礎て、精神崩壊前夜だと知る。
いつその事、碎いてください。

その眼差しの先を追う。

確かめるように手を握る。

そこにある温かさは嘘じゃない。

緋色のその糸は、黒ずんで指に絡まる。

縛り、離れないように。

例えそれが偽愛としても。

淡い記憶擦り付け、夢に生かされ狂気が廻る。
いつその事——

今、捻れた花が開く。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3133/>

捻花

2011年1月26日03時39分発行